絵入
吉野山独案内　一

吉野山独案内巻一　目録

吉野山独案内巻一

よし野山乃濫觴は天竺霊鷲の御山乃かけ
りてえ川の雲みの色まても此山を
あらはしぬ山のうちら東西ハちかく南北ハちろ
くだりまたハ胎蔵八葉の曼荼羅と顕し南
ハ金剛九会の諸尊とうつせり四十九院の細
まは弥勒の花あさやかみ三百八十の岩屋は
八瑜伽の月あきらかりまろは縁く金峯
の桜谷の奥色咲そひて白雲落くろち
やしかれ秋ハ麓くこる山乃梢黒の紅にも

又みて紅日河なりやせむしく後人是をたゝえ銀
楚六帖に日本第一の墨區といへり誠なるかな
わが山は中にみか國字擅金なりしゆへ金の
御嶽といひ山号は金峯山と名付又は國
嶽山と号し是名を平香山とも青墻山
ともいふなり

壬生忠岑

拾遺
春たつといふはかりにや三吉野の山もかすみて今朝はみゆらん

摂政太政大臣

新古今
みよしのは山もかすみて白雪のふりにし里に春はきにけり

連歌発句

みよし野やみねにハ花の山さくら　宗祇

あへく世の花にや心ひくの山　肖柏

よしの山やまよりおく花さくら　宗碩

武蔵野ハしをそわらん花とよし野山　紹巴

言の葉もうつむやむかしのよし野山　昌叱

みよしのやふ雲の外の花さくら　心前

みよしのやみねハ花にて都人　玄仍

みよしのや花に深山も都かな　昌琢

さく花のかくさらハいつこよし野山　玄仲

ちりぬる一木も花そよしの山　玄陳

こゝとゝもや花の世あふよしの山　玄的

日野の花の根さしやうし此山　昌程

いろへんよしぬて花ふ富士の雪　玄俊

花りこそ花の初かをら此山　昌通

花りし鶏よしのゝみよ吉野　仍春

昔ひらし花や一枝よしの山　昌隠

みよし野ハ山伐一本の櫻ふ　岸　宗也

入けりや花の天地よしの山　天満　宗因

雪にあけて象山のけハ杜鵑　月　宗吉

ミよしのハまけりやこそれ花盛　天王寺　以春

来ハもや青嶺を越て花しかり　大坂　西順

ちりかゝりぬ花やつもりてよしの山　吉野山　正永

ミよしのて花やうへこぬ鶺鴒の容　月　忍可

よしのゝ桜ハ瀧のさゞ波か　　同　和廣

春ちるをねにつむや花のよしの山　　今井　宗顕

花を出てもや入日やよしの山　　同　玄入

色そへし雲も花てふ花のよしの山　　同　宗楊

玄永法師の許へ夜明ニて
花ゆへ身うきことしられね　　玄訴　寝覚　　京　貞室

誹諧發句

よそになんといふ花やよしの山　　同　貞徳

色いくとせちる花のよしの山　　同　貞室

花ハよしのけにりや世のかゞみ　　同　季吟

花よ色とろ肉ちるねぶや色よれ　　同　重頼

冨士のやまかよしの花の雲まくら　　同　湖春

よしの山つゝむハ花の帽子かな　　同　章和

きゝし花のつゆもれながらそらの山　同　梅盛

山はどこにわらやよしのゝ花盛　同　了味

花の塚しこまらや吉野よしの山　同　元清

げにそく花はひさしのよしの山　同　可全

みよしのは花をつらね禄て帰かな　同　友静

滄海も清しよしのゝ花の波　廣嶋氏　善佐

風波や花数はのよしの山　天満　西翁

花の法もの字やもへのよしの山　同　空存

よしのゝもとやくどし花盛　大坂　玖也

万句してこそ言の葉の花のよしの山　堺　顕成

白雲もとよしのゝ月や山桜　同　永重

花より世は捨言の葉ならぬよしの山　同　長治

ちりぬれどなほやりみちあれのささ
かの花はみ山がくれいよよしの山
花はよしの只後会の須磨路
寂流や庵小言吉野出花ふる
よしの山折て出茶屋や花時分
花み下戸が酒屋いらにはよしの山
みよし野を目あてや花の手づま
みよしのの花や目びくこれさかり
みよしのにきてみよ花はひとへ物
よしのの路は皆さへ小ゆふたかな
みよしのの花ならうやゆけ参り
かるみ口も花みはとりしよしの山

和州郡山　正武
同　宗甫
同　見林
同下市城氏　思良
同今井森計　宗顕
同今西正蔵　宗擢
同不円氏　正之
和州高取森氏　来直
同越部弘願寺　義篤
同罡関本氏　正長
同今井大西氏　宗勝
同不下村氏　玄可

花の跡にうれしや浪ふみてゆく山　日柳本小河原氏　小丈

あかくさに蝦や尾のうきさしみてゆく山　同木姓尾氏　保直

月の輪の入やまさ磨のみてゆく山　勢州山田荒木田氏　武在

青垣山

味しられ青かき山ば魚うの奇　和州今井下村氏　玄可

○吉野山の麓六田の里にいつくし舟あり楽清の法人此門まて見むきさよしむかしかりそすへし川ミに六田の渡とそ名所ありや

前関白

新勅撰

よしの川河波をやく御禊して白地ふ花の枝まさるらん

紀貫之

古今集
よし野川岸の山吹ふく風に底のかげさへうつろひにけり

土御門院御製

風雅集
船とめて旅寝も縁にかゝる名の六田の淀の玉柳

源俊頼朝臣

千載集
あさとみし六田の淀にさくらさへ散りかゝるらし

○船をおりて一の坂とのぼりゆけば山口に出る
蛙の明神あり同所に役の行者と見え又杉鑑
の尾といふ石の像あり是より吉野山
の流までい百町ばかりにて四方の山をみる

桜よりて花のさかりハさだめしかたしといへど
立春より七十五日ほど過て彼岸より花の盛ハ雛花とも
次第にさきそめ三十日ばかりも色花ハ乃二月さかさ
色とも中十日ばかりと花のさかりといへる也一重(ひとへ)桜なり

摂政太政大臣

金葉集
よし野山峯の桜や咲ぬらん麓の里ににほふ春風

後鳥羽院御製

続古今
見渡せバふもとばかりに咲初て花も奥あるみよしのゝ山

源三位頼政

風雅集
わけ入道も桜をみつゝぬれて花のさかりハ奥ぞゆかしき

柳ノ宿
六田のわたし

六田

ミよしのよ六田の淀乃柳かな　　京　季吟

むさかりをとれや花から里くら　　日永安田氏　長政

花ちらす入ねの時も六田かな　　道悦

新式ハ悪ぐさなき六田乃蛙かな　　播州姫路住　之富

ミよしのや柳桜や六田よし哉　　和州下市秋津氏　守由

一坂

さくられ一もみぢをん一乃坂　　京　湖春

花よ俄きゞヤ万法一の坂　　和州今井大内氏　宗勝

大賢も花よましらや市の坂　　日永尾崎氏　元紗

軍する花や大功一乃坂　　日永安田氏　道忄

花よのむ一のさくてハ詩歌かな　　日永門氏　勝秀

花乃縁まけにせん一乃坂　京中嶋氏 随流
ちり掛る花もや三ケ一の坂　和州上品寺上田氏 直清
言の葉乃花や三十一乃坂　同色生住 善亨
無二無三唯一乃坂の花見かな　同軽細井 正友
二すぢの花こそ二本一の坂　同車木住 常永
花軍風よりや一の坂とり　同高取住 不得

山口

山口にわうぞ海道乃花まかな　和州坊城岸田氏 正田
山口乃奥歯やこぼる花乃笑　同高田宮侍氏 正流
山口の花より嵐へおくひかね　同

口千盛

和行
咲花の火と成ば口千盛と述来代人のとおけ炷籠　大坂中林氏 宜久

引くれてくつり窟乃下りりて焼しかハ霊香
薫じみちミちそらたち満しかれハ南天
竺より出ひきたりし沉水香といふ木なりとて
此百済国より仏師をめしてこの霊木に
て観音をつくらせ給ひ比蘇寺にをさめたまふ
その外の霊仏ハ一栽釣安居乃そきまち
しるなり

續後撰
世をらしむかしハ此寺の宿なれハ花とをきてそ開り

静仁法親王

○多分山

○渉(わたり)初し跡は岩根を尋つゝ多分山の雲も吹神風　八宮家生白庵　行圓

千早振(ちはやふる)神代をきゝし此山霞をこめし花の白雲　同　行風

花よりも多分なり水入小　湖春

温湯の多分山のさくら哉　京山田氏　元恕

万木(ばんぼく)も多分山や春の雨　大満平子　政長

桜川へ多分山や花の瀧(たき)　大坂小野氏　松緑

夕月や多分山を一分(き)れ　紀州熊野住　一入子

青雨や多分山の龍の息　京中鳴氏　随添

ころしも梅さ咲り

泉くりむさそひてとゝむ京もよし　和州長谷本願院　定卜

手もやにもつらしや焼ゝ蕨哉　勢州山田住　人之向
花のちもや焼ゝ蕨乃かく帯(かび)　和州兵庫住　玉辰
孫の手ゝ焼ゝ蕨乃鍵(かぎ)もしひ　同高田住　似柳
山焼ゝふところそへ鬼(をに)薊(あざみ)　同今井住　柳菴
みられ雪や焼ゝ蕨乃蕚(つぼ)の系(けい)　勢州山田白米氏　満通

○焼ゝ蕨しや七所計遺(のこ)峯乃薬師堂(やくしだう)あり同
和州石の不動(ふどう)あり左へ行は和山ふ文禄(ぶんろく)三年
二月吉日太閤秀吉公(たいかうひでよしこう)御参詣(ごさんけい)の時御茶屋
のありし跡河里

大閤秀吉公

よしの山梢(こずゑ)の花の色〳〵におどろかれぬる雪の明ぼの

関白秀つぐ公

まては花暮は雪とみよしぬるあらし山のまゝ録

薬師(やくし)堂(たう)三町計過右の方に嵐山(あらしやま)の亀(かめ)山院(やまのゐん)の御廟(ごびやう)は此山と洛陽(らくだい)へ入られしと云

同所むかしひのきに千本(ちもと)の桜ありか(?)世あ

迹(あと)をひろきと日なす花と云里

大納言雅章

咲まさせてきさや川里よれ山ちりそに白き花の嵐

あらし山
石ふどう
日本の花

花に風乃悪魔とさへ石不動

ちる花ハ火焔のことし石不動

まとふ蔦ハ地まの縄や石不動

つらくらる石の不動やあらしやま

和州今井中川氏 之宥

同越部住 忠良

摂州出荒木田氏 武在

大坂住 意朔

嵐山

花王の鬼門ゥ花乃あらし山

風前の舞ゥ花のあらし山

見頃の花や世界にあらし山

こすりぬるもふいさゝかよし嵐山

花は酒や山ハ嵐乃あまにのこ

落花さそはやもとへ山風と嵐山

二度りあらしの山乃落花哉

紀州和歌浦村氏 孫孫

和州世々玉井氏 是望

同高取中山氏 收軒

同石見住 歴然

同桜井住 友忠

摂州山田石跡 伊人

和州今井今西氏 宗獨

万葉集
ふかくそらの徒衣乃山に小倉の杜よりかゝる
うへなる山と舟をうつ川毎に桜のつゝし
とそ船わたし花筏かな
人丸

拾遺
これとわたる山川のさかいでもたゆる河れわたる
道助法親王家五十首の中に
よしの川たえぬ筏のわたしても思ひやる波の心と
後九条内大臣
よしの川大堰人の釣舟に浮ぶかへて花とこそみん
○同所のなかに勧進所とて真宗の御堂あり親鸞

聖人より八代目蓮如上人蓮如上人
蓮如上人
それ仏心を一向につたへけるやまことに仏

遊吉野川　藤原宗合
芝蕙蘭蓀澤　松柏桂椿岑　野客初披薜
朝隠暫投簪　忘筌陸機海　飛繳張衡林
清風入阮嘯　流水韻嵇琴　天高槎路遠
河廻桃源深　山中明月夜　自得幽居心

桜うえふ
せまろう
うめいし

本善寺
飯貝村
上市村
柳のわたし

ふかゝらぬ山はわけてみしへしも桜あへるとふかゝら
桜と三十年植をきて　大納言雅章
いかゝ六十といひし年みよしのゝ植をし花とみえん
○日本の花よもとかの方に花さかりある下
なかくの代桜田（さくらだ）といふなり　入道太政大臣
新葉集
みよしのゝ峯の花園風ふけてそれもくもれる春の夜の月
道前院親王御與り五十首の中
よしの山頭の植の桜田のとよかしての花のはしも植

○すゞしさもひとりにゆるれ松とそ大木あるじ　大納言雅章

○さかりゆく花にかくれて名をあらそふやいつとなき松

○隠れし松右のたぐひに山の井あるじ　藪原基俊

新勅撰
みよしぬ山井のつらゝ結ぶとや花の下風とそきらん　長嘯

○山の井は名おや咲みける花の雫も袖ぬらさん

○隠れし松もある金鳥居（きんのとりゐ）まで紙関屋（せきやの）花ともかなりも

太閤秀吉公

よしの山瀧もとゝろくおかれしも今宵も花のはかなやらん

准三宮道澄

よしの山木のめもはるに聞えてやあらしの花はなほ御梅

法眼紹巴

明ほのゝ雲とや見えんよしの山花は木ことに色も花の嵐

法眼由己

よしの山花の木立(こたち)とやのうちのかほりはしく移(うつろ)しとゞめてや

法橋昌叱

こゝろせよ花はそとしらんよしの山青葉もかけて見る春にあらなと

山の井

七曲

七と〱の山めけとおり花見かな　勢州山田荒木田氏　武珍

花見酒に酔ゆゑ道や七まがり　日本円氏　武在

七まがり酒の花見や桜のもと　和州今井森田氏　元信

折り萩や八十七まがり　日本下村氏　去所

七まかり花見やうたひ一まけ　日本絵師　信重

のとくさりし七まがりはれし花見酒　南都住　尚久

ひよんするに七まかりとや八重桜　吉野山青木氏　正白

花見肴入子の酒や七まがり　和州郡山氏　長房

花とおく人の山や七まがり　日本円氏　正之

亀石

長閑なる御代やうごかぬ亀の石　紀州和歌山住　一空

風さへて三国屋乃花や朶星
機巣にとめよ円屋乃花の宿
生業酒てとめよ円屋の花の宿
何とし[illegible]国屋乃花や烏甲

紀州橋本住 定吉
摂州天満平子 政長
和州八木住 春光
大坂住 自足